

基本理念の背景(案)

資料 2

2030年以降の社会の変化

人口減少・高齢化の進行、人生100年時代の到来

20代、30代の若い世代が約2割減少、65歳以上が総人口の3割を超えるなど生産年齢人口の減少が加速

超スマート社会（Society 5.0）の到来

労働人口の相当規模が技術的にはAIやロボット等により代替される可能性

グローバル化の進展と日本の国際的な地位の低下

社会のあらゆる分野でのつながりが国境を越えて活性化しており、グローバル競争の激化が予想

子どもの貧困など社会経済的な課題

貧困の連鎖、格差の拡大・固定化

教育に関する相模原市の今日的な課題

子ども・若者をめぐる課題

- ・自分には良いところがあると思う小中学生や将来の夢や目標を持っている小中学生の育成
- ・小中学生の基礎的・基本的な知識及び技能の習得
- ・小中学生の基本的な生活習慣の確立
- ・小中学生の体力・運動能力の向上
- ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援

地域コミュニティの希薄化

家庭の状況の変化

- ・核家族化の進行
- ・生活保護世帯に含まれる18歳未満の子どもの割合が高い

教員の長時間勤務

- ・教員が本来の業務に専念できる学校組織への改革

第3期教育振興基本計画(平成30年6月15日閣議決定 計画期間：平成30～34年度)

生涯にわたる一人ひとりの「可能性」と「チャンス」を最大化することを今後の教育政策の中心に据えて取り組む

教育振興基本計画を参酌し、相模原市の計画を定める

第1回相模原市教育振興計画策定委員会における意見（抜粋）

単一のキャリアで生きていくのが難しい時代になってきており、根本的な変化に向き合える力を養う教育が必要
子どもの教育と大人の教育はセットであり、大人の学びのシステムがあると良い
社会教育、学校教育、家庭教育が重なる部分について、福祉も含め、どのように連携するかを考えることが必要

総合的な人間形成を図っていくことが重要
市で生まれ育った経験を持って市内外で活躍できるよう根っこが相模原市にある教育が必要
学校教育で身に付けるよう求められるものが、覚える学習から仲間と考える学習に変化している

他の意見は、基本目標等に反映

アンケート等

基本理念（目指す人間像）

基本理念の設計図(案)

基本理念

2030年以降の社会の変化

人口減少・高齢化の進行
人生100年時代の到来

超スマート社会
(Society5.0)の到来

グローバル化の進展
日本の国際的な地位の低下

子どもの貧困など
社会経済的な課題

教育に関する相模原市の今日的な課題

子ども・若者をめぐる課題
(自己肯定感・学力など)

地域コミュニティの
希薄化

家庭の状況の変化
(核家族化・貧困)

教員の長時間勤務

相模原市の教育が目指す人間像

夢と自信を持ち 共に支え合い 現在と未来を創る人

<自立>

夢に向かって
力強く
豊かな人生を生きる人

<協働>

多様性を尊重し
他者を思いやり
共に支え 高め合う人

<創造>

感性を豊かに働かせ
広く想像し 深く思考し
新たな価値を生み出す人

目指す人間像を実現するための基本的な考え方

生涯を見通した学びの環境づくり

「縦」の接続

教育に対する社会全体の連携

「横」の連携

温かさと先進性のある施策を展開

生涯にわたる一人ひとりの「可能性」と「チャンス」を最大化

相模原市における学びが一人ひとりの人生の拠り所となり
誰もが幸福な人生の創り手となる

基本理念の設計図(案)

参考

(は第1回相模原市教育振興計画策定委員会における意見)

基本理念

相模原市の教育が目指す人間像

夢と自信を持ち 共に支え合い 現在と未来を創る人

<自立>

1
夢に向かって
力強く
豊かな人生を生きる人

<協働>

2
多様性を尊重し
他者を思いやり
共に支え 高め合う人

<創造>

1
感性を豊かに働かせ
広く想像し 深く思考し
新たな価値を生み出す人



目指す人間像を実現するための基本的な考え方

生涯を見通した学びの環境づくり

3・4 「縦」の接続

教育に対する社会全体の連携

5 「横」の連携

温かさと先進性のある施策を展開

生涯にわたる一人ひとりの「可能性」と「チャンス」を最大化



相模原市における学びが一人ひとりの人生の拠り所となり
誰もが幸福な人生の創り手となる

6

1

単一のキャリアで生きていくのが難しい時代になってきており、根本的な変化に向き合える力を養う教育が必要

2

学校教育で身に付けるよう求められるものが、覚える学習から仲間と考える学習に変化している

3

総合的な人間形成を図っていくことが重要

4

子どもの教育と大人の教育はセットであり、大人の学びのシステムがあると良い

5

社会教育、学校教育、家庭教育が重なる部分について、福祉も含め、どのように連携するかを考えることが必要

6

市で生まれ育った経験を持って市内外で活躍できるよう根っこが相模原市にある教育が必要

基本理念

(文章化イメージ)

参考

この資料に関する具体的な議論は、次回(第3回)の委員会で行う予定です。

相模原市は、平成22年3月策定の「相模原市教育振興計画」に基づき、目指す人間像として定めた「家族や郷土を愛し 広く世界に目を向け 自ら学び 心豊かに生きる人」の実現に向けた教育に取り組んできました。

しかしながら、人口減少・高齢化の進行、人生100年時代・超スマート社会(Society 5.0)の到来、グローバル化の進展や日本の国際的な地位の低下が予想されるとともに、子どもの貧困など社会経済的な課題に見られる貧困の連鎖や格差の拡大・固定化など、今後の社会の変化を正確に予測することはますます難しくなっています。

本市の教育をめぐる状況においても複雑化・多様化しており、今後の社会の変化を見据えた子どもの生きる力の育成、地域コミュニティの希薄化、家庭の状況の変化や教員の長時間勤務など課題は多岐にわたっています。

こうした状況を踏まえ、予測困難な時代で活躍するためには、人間ならではの感性を働かせ、根本的な変化に向き合える力を身に付けることが重要であると考え、本市の学びで目指す人間像を次のように設定しました。

相模原市の教育が目指す人間像

夢と自信を持ち 共に支え合い 現在と未来を創る人

夢に向かって
力強く
豊かな人生を生きる人



多様性を尊重し
他者を思いやり
共に支え 高め合う人



感性を豊かに働かせ
広く想像し 深く思考し
新たな価値を生み出す人

ここに定める目指す人間像を実現するため、生涯を見通した学びの環境づくりを軸とし、相模原市の教育を担う学校・家庭・地域・行政が連携を一層強化しながら、温かさと先進性のある施策を展開することにより、一人ひとりの可能性とチャンス을最大化し、誰もが自分らしく成長できる豊かな学びの機会を創出していきます。

こうした相模原市における学びが一人ひとりの人生の拠り所となり、誰もが目指す人間像を実現し、幸福な人生の創り手となるよう教育行政を推進していきます。